

第4学年「わくわく湿原パーク～行ってみよう！釧路しつげん～」

単元の概要

(1) 単元の概要

3年生では、地域の学習、買物学習、施設訪問などを総合的な学習の時間に行っており、4年生では視野を広げて市内全体を見て行く段階となる。4年生の総合では、動物や植物をテーマにしたいと強く思っている子が多く、多様な動植物がいるフィールドとして、また、釧路に住んでいながら、釧路湿原のことを知らない子が多いことから、釧路湿原をテーマとして実施していくこととなった。

本単元では、四季を通じた湿原でのフィールド学習を基盤とし、その学習の中で、課題を設定し、探求活動を深めていく。また、フィールド学習や博物館での調べ活動などで感じたことは都度発表交流を行うとともに、光陽フェスティバルでの発表を行う。

(2) 環境教育としての視点

四季を通じて釧路湿原を探検し、自分の目や耳、体全体で湿原を感じることで、今まで知らなかった湿原の素晴らしさを知る。また、湿原に関係する人たちなどと触れ合うことにより体験的で実感の伴った活動を展開するとともに、湿原の大切さや問題点などにも触れ、地域の自然の素晴らしさについても考えさせたい。普段は多くの制約がある中で生活しており、自分の目で見て、心を揺さぶられる経験を味わうことで、次へつながっていくと考える。

<環境をとらえる視点>

(3) 教科等の関連

単元のねらい

(1) 単元目標

(2) 評価の観点

評価の観点	趣旨

指導計画

時間	学習活動 ・ 主な内容	教師の指導・支援	主な評価
	<p>希望調査・話し合い</p> <p>総合の時間で行いたいことを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路市内の地域を対象として、調査していきたいものを話し合う。 ・ 釧路の動植物、自然、名物、町の福祉など様々な視点から考える。 		
	<p>釧路湿原ってどんなところ？何があるの？</p> <p>事前学習として VTR を視聴する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校に「・・・」より配布されているビデオ、担当教師が湿原で撮ってきた映像を見る。 		<p>湿原への興味・関心を高めたり、実際に行ってみたいという気持ちを高める。</p> <p>湿原の映像を撮りに行き、児童に見せる。</p>
	<p>第1回探検計画・湿原探検</p> <p>探検の計画づくり、湿原でのフィールド学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北斗展望台より湿原全景を見る ・ 温根内ビジターセンターを訪問。 <p>木道探検、お花畑観察、野鳥・鳴き声観察、ザリガニ捕獲体験、貝の化石ほり体験</p>		
	<p>課題を立てよう</p> <p>第1回湿原探検を終えて、調べたい課題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を決める、調べ方を考える、体験してみたいことを話し合う、決まった課題を発表する 		
	<p>追究活動</p> <p>各自が設定した課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図鑑で調べる、図書館で本を探す、様々な資料を収集する、教師から資料を借りる等 		

夏休み自由研究等

夏休み中の自由研究として自由テーマで取り組ませた。

児童の取り組んだ内容：湿原探検、湿原の植物観察、ヘイケボタル見学、博物館見学、タンチョウ観察等

	<p>第2回探検計画・湿原探検</p> <p>探検で調査することを明確にし、計画を立て、第2回湿原探検を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題、調査方法などを明確にし、グループでの探検計画を立てる ・ 温根内ビジターセンターを訪問し、時間をいっぱい使ってのフィールド学習を行う（高層湿原、野鳥、鳴き声観察、ザリガニ捕獲、タンチョウ観察） ・ ビジターセンターの指導員への質問 ・ 探検で得られたことを発表交流する 		<p>探検で調べたい課題、調べたいこと（方法）をはっきりさせるように促す。場合によってはグループで調整してもよい。</p> <p>どこでどのような活動をするのか、具体的な活動計画を立てさせる。</p> <p>ビジターセンターに名簿とトランシーバーを用意し、子どもと連絡がいつでもとれる状態を確保する。</p> <p>デジカメ、絵、言葉で記録を残させる。</p>
--	--	--	--

時間	学習活動 ・ 主な内容	教師の指導・支援 主な評価
	<p>追求活動</p> <p>調査で生まれた疑問点を博物館の学芸員に聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問計画づくり ・ 博物館での質問 ・ わかったことをまとめ、発表する ・ 新たな疑問の追及 	<p>事前に生き物別に質問をまとめさせ、博物館へ送付させる。</p> <p>発表方法の学習の場としても博物館訪問を位置づける。</p> <p>児童が自分でも調べに行くことができるように、路線バスを利用した計画を立てさせる。</p> <p>児童が自分達では行けない様な場所、施設などについては、教員が画像を撮影し、児童に見せるようにする。</p>
	<p>第3回探検計画・湿原探検</p> <p>冬の湿原でのフィールド学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探検の計画づくり、湿原でのスキー体験 ・ 雪の高層湿原観察、冬の野鳥観察、生き物の足跡観察 ・ 探検後に発表交流を行う 	
	<p>わかりやすく伝えよう！</p> <p>光陽フェスティバルでの発表に向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わかりやすく伝える方法を話し合い、準備を進める。 ・ リハーサルを行い、問題点や足りないことを話し合う。 ・ 光陽フェスティバルで発表する 	<p>低学年にもわかりやすい内容であることを促す</p>
	<p>ふりかえり</p> <p>光陽フェスティバルでの発表、1年間の活動、良かったこと、自分の成長等を振り返る</p>	

光陽フェスティバル：全校行事で、低学年では生活課での成果、中・高学年でも、その他の総合で行ったテーマの発表の場として、保護者や地域の方にも来て頂いている。

学習活動の実際

第1回 湿原探検

本時の目標

自分の目や耳、体全体で湿原を感じることで、今まで知らなかった湿原の素晴らしさを知ろうとする。

本時の展開（時間）

主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応	教師の指導・支援 評価の視点（方法）
<p>北斗展望台で釧路湿原全景を見る</p> <p>・</p> <p>温根内ビジターセンターにて、レンジャーからのお話を聞く</p> <p>・</p> <p>木道探検 クイズシートを使って、ビジターセンター内、レンジャーからのお話、木道散策から答えを見つけ、シートを完成させていく</p> <p>・</p> <p>体験タイム 化石ほりコース なぜここから貝の化石が出てくるのか疑問を持つきっかけとして</p> <p>・</p> <p>ザリガニつりコース なぜここでザリガニが釣れるのか、外来種や駆除の問題へのきっかけづくりとして</p> <p>・</p> <p>植物（お花畑コース） 高層湿原まで木道を歩き、花をスケッチする</p> <p>・</p> <p>鳥観察コース 野鳥を観察、ボイスレコーダーなども利用して鳴き声の記録、バードコールやかっこうぶえの使用</p> <p>・</p>	<p>添付資料：第1回湿原探検計画</p> <p>子ども達の初発の思いを組み入れるために、プログラムには動植物のテーマとする活動を組んでいる。</p> <p>あらかじめ子ども達に生まれる疑問やきっかけを想定してプログラムを検討するようにする。</p> <p>添付資料：クイズシート</p>

フィールドで「ふれる」体験からの学習

クラスの動き

事前下見、ビジターセンターとの打ち合わせ・移動・安全管理など

フィールド学習にあたっての受け入れ施設との打ち合わせ等

3回のフィールド学習を行うこととなった温根内ビジターセンターの指導員とは、数回事前に打ち合わせに通り、アドバイスを受けながら、教員側からも企画を提案して、年間計画として組み上げて実施した。

保護者への協力依頼：

懇談会の際に、全体構想や児童の思いなどを含めて説明を行い、協力を仰ぐ。フィールド学習の際に帰宅時間が遅くなることや、路線バスを利用することなどから費用などの課題もあったが、理解いただき、非常に協力的であった。

移動・安全管理など

6月8日(木)

組 名前

第1回 湿原たんけん計画

- | | |
|----------|---|
| ★6月8日(木) | ※酔い止め薬 |
| 9:00 | 学校前出発 <small>てんぼうだい</small> |
| 9:25 | 北斗(ほくと)展望台
※釧路湿原全体を見る |
| 9:40 | <small>おんねない</small> 温根内ビジターセンター着
トイレ(写真撮影)
レンジャー(若山さん)からのお話し |
| 10:00 | 木道たんけん出発 |
| 10:40 | 体験タイム開始
(しつ問タイム) |
| 11:40 | 昼食(体験終了後昼食じゅんぴ)・トイレ |
| 12:10 | ビジターセンター出発 ※酔い止め薬 |

★湿原体験コース

- 化石ほりコース** センターうら約5分
 湿原のでき方がわかる。がけ登り。
 化石が出てくるところ？
 <道具がひつよう>
 ペットシャベル、ふくろ
- ザリガニつりコース** 片道15分
 湿原のザリガニをつる(つってもいいザリガニ)
 つり道具、えさ、ペットトラップ、
- 植物(お花畑)コース**
 こうそう湿原(木道)片道25分
 花スケッチ
- 鳥かんさつコース** 片道15分
 どんな鳥がいるかかん察 鳴き声の記録
 バードコール、かつこうぶえ、ボイスレコーダーなど



おんねない てく²さんぽ de くいあ

光陽小学校バージョン

ビジターセンター内の様子やレンジャーわかやまさんのお話、木道をてくてく歩いて、答えを見つけましょう。

1. 釧路湿原や動物園のヤチハンノキの上に巣を作り、大きなコロニーをつくっている鳥の名前は、何ですか？ (39 センターにてんじ)

- ①タンチョウ ②クロサギ ③アオサギ ④アカウサギ

※その鳥のたまごは、何色ですか？ ①白 ②灰色 ③水色

2. 釧路湿原には今までのさいこうの数のタンチョウがいましたが、今年の3月の新聞に出ていたちょうさの結果は、約何羽？ (39)

- ①約800羽 ②約900羽 ③約1000羽 ④約1200羽

3. 「やちまなこ」の深さは、どのくらい？<木道入り口>

- ①子どもが立てるくらい ②ブアブアが立てるくらい ③キリンの首も出ないくらい

4. 釧路湿原は、昔何とよばれていたでしょうか。<23~29>

- ①魚 ②トンボ ③クワガタ ④アメンボ ⑤ウマカボー

5. 釧路湿原には、氷河期（ひょうがき）からの生き残りたちがいます。名前を書きましょう。<36>

①サンショウウオ →

②植物 →

③トンボ →

これで、クイズは すべて終わりです。いかがでしたか？

正かいは、昼食の時に発表します。あなたはいくつ正かいましたか？
3つまで～まだまだ 5つまで～湿原のすばらしさがわかる
8つ～湿原ガイドになれるでしょう！

※ここからは、力だめし問題です。やってみたい人は、木道をひとまわりしなければわかりません。時間によゆうがあつて、まわって見たい人はちょうせんしてみてください。

6. トランプのスペードの形に似た白い花のような植物の名前は？

- ①ヒメシャクナゲ ②ミズバショウ ③ヒメカイウ ④エンコウソウ

7. 釧路の1年の平均気温は、何度Cでしょう。

- ①0.7°C ②5.7°C ③10.7°C ④17°C



8. 釧路湿原にいるホタルの名前は、何でしょう。

- ①ゲンジボタル ②ヘイケボタル ③ウミボタル ④ホタルイカ

9. 釧路湿原にある食虫植物の名前は何か。

- ①キツネモ ②コキツネモ ③タヌキモ ④ズッコケ

10. 次の足あとは、だれ？



- ①キタキツネ ②エゾリス ③エゾユキウサギ ④ティラノサウルス

第2回 湿原探検

本時の目標

.

本時の展開（11時間）

主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応	教師の指導・支援 評価の視点（方法）
<p>探検での課題、調べたいこと、調べる方法などをはっきりさせる。（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none">・ザリガニを沢山釣ってみたい。ザリガニの観察をして絵も描いてみたい。釣り竿やえさ、バケツもいる。どうやって持ち帰ろうか。・高層湿原でタンチョウを見たい・ビジターセンターで、レンジャーさんに質問したり、鳥のLD,VTRを見て調べたい。・展望台の木道で小鳥を観察しよう。・ビジターセンター付近で鳥を観察しよう <p>探検の活動計画を立てる（2時間）</p> <p>どこでどのような活動をするのか、持ち物の確認、使いたい物、借りたい物など役割分担、探検までに作成する物を用意</p> <p>.</p>	<p>探検の日時、活動時間を提示し、路線バスの時刻に合わせて計画させる。</p> <p>夏休みに探検したグループから情報を得るように促す。</p> <p>各グループごとに時間をかけて自主的に活動できるように、グループで観察地点に出発してから帰るまでの行動を計画させるようにする。</p>
<p>第2回湿原探検（6時間）</p> <p>.</p>	<p>温根内たんけんマップを作成し、活用を促す。</p> <p>テーマグループごとに1日使ってじっくり調べる機会とするため、昼食もグループごとにその場で、児童の判断で自由にとれるようにする。</p> <p>添付資料：釧路湿原 温根内たんけんマップ</p>
<p>探検結果を発表し交流する</p> <p>.</p>	

フィールドで「ふれる」体験からの学習

事前下見、ビジターセンターとの打ち合わせ・交通・安全管理など

交通：路線バスを利用し、学校からバス停まで徒歩で15分移動し、阿寒バスに乗車。日赤病院前9:05発、温根内ビジターセンター駐車場まで約30分。路線バスを利用するため、帰宅時間がかなり遅くなる。事前に保護者に報告しておく必要がある。

安全管理：教員は担当の2名に加え、2名に参加してもらい、全4名で実施した。児童が落ち着けば木道は比較的安全であり、1日ゆっくりと時間を使って湿原に留まることも良いと感じる。子どもと連絡がいつでもとれる状態を確保するため、ビジターセンターに名簿とトランシーバーを用意し各グループにもトランシーバーを渡した。

温根内しぜんたんしょうどう

釧路湿原 温根内たんけんマップ

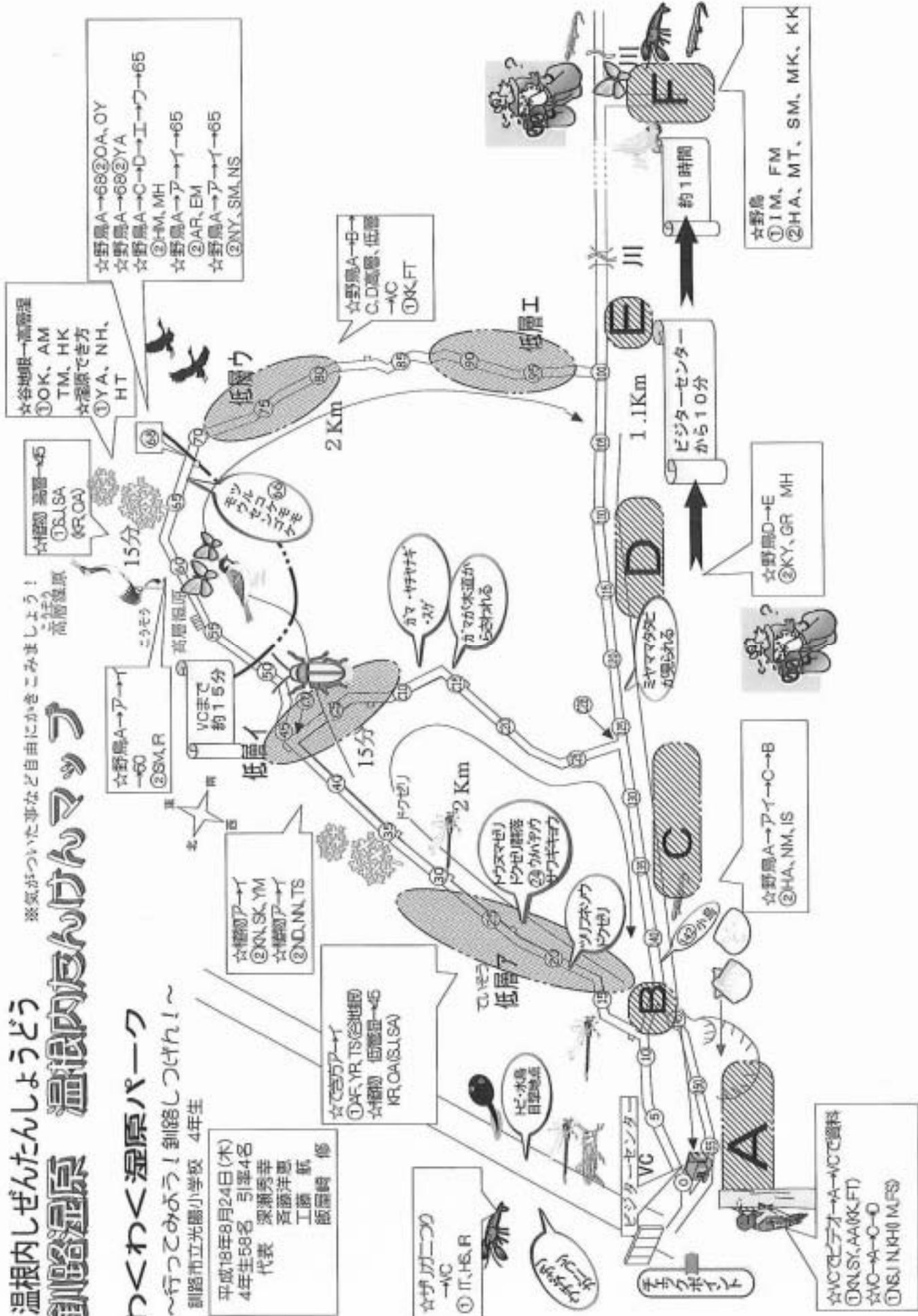
※気がついた事など自由にかきこみましょう！
高層湿原

わくわく湿原パーク

～行ってみよう！釧路しづげん！～

釧路市立光園小学校 4年生

平成18年8月24日(木)
4年生58名 引率4名
代表 深瀬秀幸
斉藤洋恵
工藤 航
飯島崎 修



第3回 湿原探検

本時の目標

- ・冬の湿原の様子を観察し、スキー体験で冬の自然の良さを体いっぱい味わう

本時の展開（時間）

主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応	教師の指導・支援 評価の視点（方法）
オリエンテーション（諸注意、準備） ・ スキー体験（1時間40分） スキーに慣れていく活動に平行して、鳥の巣の観察、アニマルトレッキング、湧水の観察などを行う。 ・	添付資料：第3回湿原探検計画

フィールドで「ふれる」体験からの学習

事前下見、ビジターセンターとの打ち合わせ・交通・安全管理など

ビジターセンターとの打ち合わせ・事前準備等：

児童の靴のサイズは事前に調査し、ビジターセンターへ確認した。また、教員が3回ほど学校終了後にビジターセンターに伺い、全児童分のワックスをかけた。これらの準備時には、ビジターセンターには、特別の配慮をいただいで実現することができた。

2月13日(火) **4年 総合学習「わくわく湿原パーク」**
 ~行ってみよう！釧路しつけん！~

第3回 **湿原たんけん計画**

組 名前 _____

★目的 冬の湿原の様子を観察します。スキー体験で冬の自然のよさを体いっぱい味わうことができます。

★内容 小鳥の観察や生き物の足跡観察、スキー体験するため、グループ行動しない。

☆2月21日(水) 1組 29名+深瀬、工藤先生

☆ 22日(木) 2組 28名+斉藤、工藤先生

8:40 学校前出発(徒歩20分)

9:05 路線バス(阿寒)乗車

9:40 温根内ビジターセンター駐車場着

9:45 諸注意、準備(トイレ、身じたく、スキーをはく)

10:10 スキー体験出発

※初めてでもすぐ上手になるそうです!

11:50 活動終了(1時間40分)

かたづけ、昼食(2階)、トイレ

12:20 出発準備

12:25 ビジターセンター出発

12:38 阿寒バス乗車

13:07 日赤前バス停着(歩きやすい道から帰る)

13:27 学校着



☆持ち物 ※リュックに入れてもってきます。くつは、ふだんはいているもの。

- ・汗ふきタオル ・(とりかえ用シャツ~女子は部屋を借ります)
- ・おにぎり(豚汁) ・わりばし ・水筒 ・ペットボトル(お茶) ・てふき ・ティッシュ ・ビニール袋
- ・バス代 片道320円(合計640円 おつりがないように! さいふに入れて持ってくる)
- ・帽子 ・手袋(ぬれる) ・寒くない服装

☆その他持ち物メモ

※学校から借りたい物があれば、相談して下さい。



本学習における成果・子どもの変容

1、春、夏、冬の探検から

当初は湿原に行ったこともない生徒がほとんどで、知識も興味もなかった。虫などがいて行きたくないというイメージ先行の児童が多くいたように感じる。いざ湿原に行ってみると、多くの人が、海外からも湿原を訪れていて、良い所だという感覚を得たようである。自分達の地域には、こうしたものがあるといった郷土愛の意識だと考えるが、児童の中にも変化があり、家庭にも波及があった。

湿原は、子ども達にとって様々な生物が暮らす魅力的な場所であり、出会うこともできて感動していた。この感動や目で見て感じた様々な疑問などから追究課題が生まれた。冬も体験できたことで、季節それぞれに湿原の素晴らしさがあることも学ぶことができた。生き物を育てている湿原を多くの人に知ってもらいたいといった関心や、湿原の出来方にも関心が多くあったようである。

2、博物館の利用から

湿原での調査から生まれた新たな疑問やわからない点などを博物館の先生方に教えていただいた。時間的に足りない児童は、後日、何度か博物館を訪ねていた。

3、積極的な追究

夏休みを利用して湿原に行き、1日中観察したり、父母を誘って何度も温根内ビジターセンターを利用したり、市立図書館、博物館にも自分で調べに行くようになった。

4、その他の活動へ発展

ビジターセンターでの各行事に親子で参加したり、教育大釧路校大学院課程と連携して行った湿原での行事「秋 みっけ隊」などに多数参加した。また、常呂町で行われた kodomo ラムサールに、1名の児童が参加したいと手を挙げ、児童自らが親を説得して発表するということがあった。彼女はその時に常呂町の活動団体に加盟し、その後も活動に参加していたようである。

5、湿原の素晴らしさ、環境問題、光陽フェスティバルの取り組みから

環境問題を学級全体に投げかけているグループもあったが、それぞれが湿原に対する想いを膨らませ、対話や交流を繰り返すことによってコミュニケーションすることに慣れた。さらに、光陽フェスティバルでの発表（伝える工夫をしたプレゼン）により、いろいろな発想や工夫を取り入れ表現力の向上にもつながった。

6、社会性の発達

フィールド学習や博物館への訪問、探究活動などを通して、公共の場での距離感を養ったと感じる。大人も利用する場所での使い方、公共交通での移動の仕方、調べ方など、社会性が育った。また、自ら調べ方を考え、自主的に調べるという活動を通して、他教科にも広がりが出てきた。

本事例活用にあたっての補足情報

・本事例の担当教師から

本単元で行った内容について、構想は以前より常に持っていたが、児童への押し付けになっては意味がないので、子どもの願いにマッチするタイミングを待ち、今回、行うこととなった。児童の思いに基づいてテーマ選択を行ったことで、学びが広がると考えている。

検討課題として、以下が挙げられる。

- ・ 湿原に出かけて経験することで大きな成果が得られたが、経費や路線バス時間などいろいろな制約が多い
- ・ 湿原関係の児童用の資料がほとんどない。市立博物館3階は豊富であるが、貸し出しできないため活用しきれなかった。
- ・ 新学習指導要領では、時数が減少するため、新たなプログラムを検討していく必要がある。

・環境教育ワーキンググループ事務局より補足情報